

1. 生命表について

生命表は、ある期間における死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や、平均してあと何年生きられるかという期待値などを、死亡率や平均余命などの指標によって表したものである。

これらの指標は、男女別に各年齢の人口と死亡数を基にして計算されており、現実の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、全ての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

2. 完全生命表と簡易生命表について

厚生労働省では、日本の生命表として、「完全生命表」と「簡易生命表」の2種類を作成・公表している。「完全生命表」は、国勢調査による人口（確定数）と人口動態統計（確定数）による死亡数、出生数を基に5年ごとに作成し、「簡易生命表」は、人口推計による人口と人口動態統計月報年計（概数）による死亡数、出生数を基に毎年作成している。

国勢調査年については、まず「簡易生命表」を作成し、国勢調査の結果（確定数）の公表後に「完全生命表」を作成するため、完全生命表は生命表の確定版という性格を持っている。

また、これらの生命表は、特に重要な統計として、統計法に基づき基幹統計に指定されている。

表1 完全生命表と簡易生命表

	完全生命表	簡易生命表
作成年	5年ごと	毎年
人口	国勢調査	人口推計(10月1日現在)
死亡数	人口動態統計(確定数)	人口動態統計月報年計(概数)
出生数	人口動態統計(確定数)	人口動態統計月報年計(概数)

注：生命表に用いる年齢別死亡率は、1歳以上の場合は人口及び死亡数、1歳未満の場合は出生数及び死亡数により算出している。